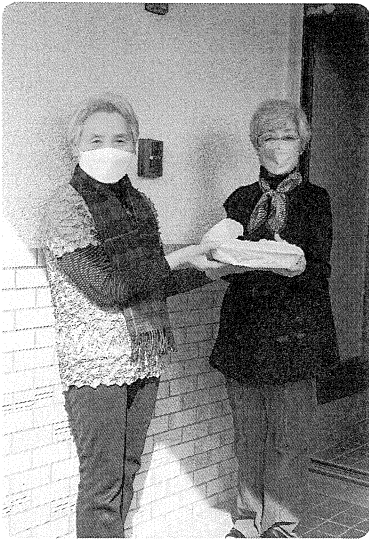


ふれあい食事サービス



今年度もコロナにより例年どおりの事業はできませんでした。それでも、一人暮らし高齢者への昼食サービスは何とか実施することができました。いつもの手作りではありませんでしたが、お弁当を自宅にお届けして食べていただきました。

感染症対策も、マスクの着用が病院への受診時などは注意しなければなりません。基本的には個人の判断に委ねられるなど、少しずつ変わってきて日常生活を取り戻そうとしています。

恐れすぎの必要はありませんが、高齢者や基礎疾患のある人はリスクが高いので、やはり十分注意したほうがいいと思います。地区社協も、来年度は本来の活動ができるようになるれば良いのですが。

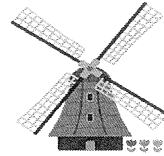
**上諫早
社協だより**

第10号

発行
上諫早地区
社会福祉協議会
会長 福富力



地域での生活支援



住みやすい街づくりを目指して、令和2年度に「上諫早地区地域福祉計画」を策定。令和3年度は、この計画に基づき、お互いに助け合って生活する支援体制を作るため、75歳以上の高齢世帯を対象に「日常生活での困りごと」のアンケート調査を実施。

今年度は、その回答に対しての対応、又今後の生活支援のあり方について協議しました。その結果、一部の世帯には、近所の人に草刈り等の支援をしてもらうことに。また、本明町では、いくつかの世帯で班長さんに電球交換をしてもらうことになりましたが、ほとんどの世帯は今のところは自活でき、又子供や兄弟の助けを受けて生活できています。

現時点では地域で生活支援体制を作るまではないと判断しました。しかし、近い将来支援が必要になるだろうという世帯がありますので、名簿を作成し、気を付けて見守りながら、支援が必要になった時点で検討していくことにしました。

九十年を生きて

長生きの秘訣は？突然の質問をいただくことがよくあります。

そして年齢が近い友人が集うと、生きること、今から迎える死が話題になり、語り合う機会が増えたなと感じます。

私ごとで申し訳ありませんが、生きるためには、自分のことは自分でしなければならぬ、独り暮らしで特別なことではないですが、できることは人様にたよらずやり遂げたいと思っています。

「自由を取るか、寂しさを選択するか」と、亡き母の言葉を思い出して、自身を叱咤激励しています。

あの世のお迎えは必ずありますから、元気に生きるだけ生きて、まだ見たことのない世界を見に一人で行こうと思っています。

目代町 横山瑠子

横山さんは、4月で91歳。絵を描いたりスマホでゲーム、無理をしない程度にランドゴルフやいきいきサロンなどいろんなことに興味があり、目代が、そして地域の人のふれあいが大好き。とても若々しくて上品なおばあちゃんです。

こんな生き生きとした老後。目標になります。